



あいち Junior Red Cross 青少年赤十字

平成30年度・令和元年度 研究委嘱校 長久手市立東小学校

自ら進んで学び続ける児童の育成



IKEA長久手へ校外学習



JICA地球広場訪問



東小を変えるための12の目標

振り返る

シェイクアウト訓練後の振り返り



気づく

- ◆問題解決的な学習の重視
- ◆学習形態の工夫 ◆JRCリーダー
- ◆異年齢集団、保護者、地域と関わる場の設定
- ◆自他のよさを認め合う場の設定

考える



防災についての啓発運動

実行する



外国の方との交流

広がる

コロナ禍

青少年赤十字指導者協議会会長



高畑 尚弘
(愛知県立時習館高等学校長)

新型コロナウイルス感染拡大防止のためこの3月からはほとんどの学校は臨時休業となりました。この原稿を書いているのは6月上旬、約3か月の休業を経て学校が再開されたばかりです。コロナ禍は当初の漠然とした想像を超え、社会生活に大きな影響をもたらし、私たちの意識を大きく転換させる原動力となりました。

ある全国紙に「バターライ効果」を例に各々に自覚を求める文が載っていました。些細なことがパンデミックに繋がると示唆しています。アクセルを踏み過ぎず、ブレーキを上手に掛けて、正しく恐れて行動することは言うまでもありません。学校が再開した初日に校内放送を通じてこれからの学校生活について二つのことを話しました。一つは、いわゆる「新しい生活様式」に沿うこと。新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同程度の恐ろしさの感染症になるまで感染拡大を防ぐ生活を心掛けること。いつまでか？有効な治療薬やワクチンが開発・整備されるまでの期間、数年間を覚悟しなければいけない。我慢の日々が続くことになる。恐ろしいのは助かる人が助からなくなる医療崩壊を招かないようにすることだ、と。もう一つは、差別のこと。人は不安から、あたかもウイルスを誤って見えない化し、人を攻撃の対象にしてしまうことがある。相手のことを自分のことと思ひ、肩身の狭い思いをしないように配慮することが大切だ、と伝えました。

さて、本支部・指導者協議会の活動も例年とは異なる態様になるのは必至ですが、コロナ禍であるからこそJRCの態度目標「気づき・考え・実行する」を意識し、身をもって体現できるように多くのことを学ぶ日々になればと願っています。

各地区の活動状況

名古屋地区

昨年度の活動について紹介いたします。今年度は、この中から「愛の年賀状」に取り組み予定です。

○指導者研修会

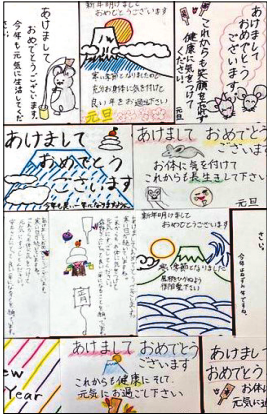
8月5日(月)に開催し、国際人道法や名古屋地区トレセンに関する研修を行いました。

○名古屋地区トレセン

8月6日(火)7日(水)の2日間、名古屋市総合社会福祉会館を会場に行いました。小中学生やボランティアの高校生27名が、1日目は視覚障がいがある方からお話を聞いたり、ボッチャのバリンピック選手と競技をしたりと福祉体験を行いました。2日目は外国の方から学校の様子や伝統的な遊びについて学び発表する国際交流活動を行いました。

○愛の年賀状

希望者を募り、歳末にかけて、中部善意銀行から紹介された市内の高齢者福祉施設に入所されている方に、心のこもった年賀状を送る活動をしました。



愛の年賀状

尾張地区



トレセン「フィールドワーク」

6月16日(火)に予定していました、令和2年度尾張地区青少年赤十字加盟校総会・校長連絡会は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となりました。また、7月28日(火)・29日(水)に春日井市少年自然の家で行われる予定でした尾張地区トレセンにつきましても今年度は中止となりました。

今後の活動につきましては、次のような予定となっております。

○発表交歓会・指導者研修会

期日 12月24日(木)

会場 名古屋芸術大学アートスクエア

(北名古屋市文化勤労会館)

尾張地区は、現在、幼・保を含めて197校・園が加盟しています。今後も加盟促進と共に、学校生活のさまざまな場面で、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」ことのできる児童生徒を育む活動を推進していきたいと思っています。

知多・海部地区

5月21日(火)にあま市美和文化会館において、知多・海部地区青少年赤十字指導者協議会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、中止とし、紙面開催となりました。そこで、次のとおり、本年度の事業計画が承認されました。

○知多・海部地区トレセン ※中止

期日 7月25日・27日

会場 美浜少年自然の家

○指導者講習会・児童生徒交歓会

期日 12月25日

会場 知多市勤労文化会館

知多・海部地区は、現在、185校が加盟をしています。新型コロナウイルス感染症への対応をしていかなければならないこの時期だからこそ、加盟促進とともに、学校生活のさまざまな場面で、「気づき、考え、実行する」ことのできる児童生徒が増えていくよう、活動の推進をしていきたいと思っています。



知多・海部児童生徒交歓会

東三河地区

6月12日(金)に、令和2年度の東三河地区青少年赤十字指導者協議会総会を豊橋市教育会館で開催する予定でしたが、中止となりました。令和元年度の事業報告・決算並びに令和2年度の役員と事業計画・予算等については、紙面で承認を得ることで対応しました。

研修会では、蒲郡市立西浦小学校の林 正人校長先生を講師として、演題「青少年赤十字国際交流事業(モンゴル派遣)に参加して」についてのご講演をいただく予定でした。

2月には、「青少年赤十字活動実践集」を発行します。各学校の今年度の取り組みをまとめ、交流、共有することで、各学校が次年度の活動に生かすことができるようにしていきたいと考えています。本年度の東三河地区の加盟校は、小学校45校、中学校19校、合計64校です。今年度も、各小中学校が特色ある活動、他校や地域と連携した活動等を通して、「気づき、考え、実行する」児童生徒の育成に取り組んでいきます。



校区合同防災訓練「災害救助体験」

岡崎地区

今年度の岡崎地区小中学校指導者協議会の活動は大部分を中止とし、来年度へ向けてよりよい活動を考え準備していきます。昨年度の活動は次の通りです。

○7月30日、31日 地区トレセン

市内全ての小中学校から各1名の参加で実施します。事前にトレセンスタッフの研修の機会を設け、地区トレセンがより充実した2日間となるように進めていきました。



岡崎地区トレセン「ホームルーム」

○1月 「JPRCC岡崎だより」発行

総会・研修会、トレセンの様子のほか、各校での特色ある青少年赤十字活動を紹介しました。

○2月 「実践活動文集」発行

トレセンに参加した児童生徒が、各校で実践した活動の成果と感想をまとめ、実践活動文集として発行しました。

刈谷・安城地区

刈谷・安城地区（知立・高浜・碧南・西尾を含む）では、小学校46校、中学校21校の合計67校が加盟しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、残念ながら、6月に安城市教育センターにて開催予定の第1回刈谷・安城地区青少年赤十字指導者協議会及び、7月下旬に碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターにて実施予定の刈谷・安城地区トレセン（1泊2日）を中止することになりました。

○実践報告集の作成

地区活動の活性化を図るため、年度末に各校の特色ある活動を冊子にまとめ、情報交換や今後の活動の参考にし、子どもたちに今後の赤十字活動の重要性を啓発していきたいと思います。



R1 刈谷・安城地区トレセン

豊田地区

豊田地区は、市内すべての小中特別支援学校10校が加盟しています。各学校は、次の4つの活動を進めるとともに、学校独自の特色ある取組も進めています。

○地区トレセン

昨年度より冬季休業中に市内全小中学校の代表児童生徒が参加し、1泊2日の日程で実施しています。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止しました。



昨年度のトレセン

○豊田市社会福祉大会

各加盟校の特色ある活動をボードにまとめて展示し、青少年赤十字活動を広く市民に紹介しています。

○お年玉募金活動

市独自の取組として「お年玉募金活動」を行っています。昨年度は海外支援として、バングラデシュ南部避難民支援、国内では台風19号で被害に遭われた方々に義援金を送り、様々なことに役立てていただいています。

○「実践活動報告集」発行

各校の実践や豊田市福祉大会、トレセンの様子を報告集にまとめ、「実践活動報告集」として発行しています。

高校部会

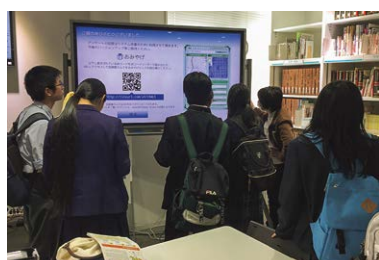
高校部会では、昨年度月に1度のメンバー委員会（役員会、機関誌委員会）を開催しました。役員会では、メンバー連絡会にてボランティア時に役立つスキルアップ講習として、「車椅子体験」「レクリエーション体験」等を実施しました。機関誌委員会では、名古屋大学減災館を見学し、そこで学んだことをテーマ「災害への備え」とした機関誌にまとめ、加盟校生徒の防災意識向上を図りました。

2月に行われた「活動発表会」では、各校の発表を聴講した加盟校のメンバーにとって、自校でのボランティア活動を振り返るきっかけとなり、活動の幅を広げることができました。

このように、メンバー委員会では、「高校生の私たちに何ができるか」という視点から、態度目標である「気づき・考え・実行する」を実践してきました。

また、毎年夏休みに行われるリーダーシップトレーニングセンターでは、班で協力して課題に挑みながらゴールを目指すフィールドワークや、非常食（アルファ米）体験、期間中に学んだ事を各校へ戻ってボランティア活動を企画するワークショップに力を入れて取り組んでいます。

この経験を活かし、各校での活動の活性化へつなげることでできま



機関誌委員「減災館」見学



福祉の学習を通して

豊橋市立牟呂中学校 2年

竹内 花菜

私たちは昨年度、総合的な学習の時間で福祉について学習しました。「福祉」とは、「すべての人々に最低限の幸福と社会的支援を提供する理念」であり、私はどのようにしたら日常生活に支障を抱える人々が不自由な思いをせずに生活できるのかを考えました。

6月の福祉実践教室では、車いす操作の補助をする際、乗っている人を驚かせないように声をかける必要があることを知りました。12月の福祉体験学習では、実際に福祉施設を訪ね、利用者の人が過「こしやすい」ように一人一人に合った配慮や対応がされていることが分かりました。

これらの経験を通して、困っている人を見かけたためらわず手を差し伸べ、相手の立場になり、何を必要としているのか、その人の気持ちに寄り添って行動することが大切であることを学びました。これからは、社会の一員としての自覚をもち、どのような人に対しても思いやりのある行動をとれる人になりたいです。



福祉実践教室「車いす体験」

あいさつの輪を広げよう

岡崎市立北野小学校 6年

清水 奎伸

「おはようございます。」

北野小学校では、毎朝校門で「あいさつリレー」をしています。東門と西門で先に到着した通学班が、後から来た班とあいさつをします。最後に門を通る班まで、次々とつながる「あいさつリレー」で、元気よく、気持ちよく一日のスタートを切ることができます。大きな声であいさつすることを心がけながら、全校児童で取り組んでいます。

そしてさらに、この「あいさつリレー」が定着し、門で会う人以外にもあいさつをしよう、僕たち企画委員で考えたのが「あいさつ列車」です。これは、朝のしたくを終えた児童で列車をつくり、1階から4階まで歩く間に会った人に、元気よくあいさつをするという活動です。限られた期間での取組でしたが、コミュニケーションの場にもなり、あいさつの大切さを実感しました。

一人一人が自分からあいさつができるようにになり、さらに活気あふれる北野小学校になるように、今後も続けていきたいと思っています。



あいさつ列車で元気にあいさつ

つなげて広めよう元気なあいさつ

安城市立丈山小学校 6年

梅本 咲和

私は、あいさつが好きです。そんな私は昨年度、企画委員になりました。あいさつのできる学校を目指して「あいさつものまね大使」を企画しました。私たちが手本となるよいあいさつをして、あいさつ大使を増やす企画です。

初めは、あいさつをしても、なかなか返してくる人はいませんでした。どうしたら返してくれるかを考え、相手に伝えることを意識することにしました。大きな声で目を見ながら言ったり、時には、立ち止まったりしてあいさつをしました。すると、あいさつが返ってくるようになり、あいさつ大使がどんどん増えていきました。最終的に、百人以上のあいさつ大使が朝のおはようロードで元気なあいさつをする丈山小になりました。



朝のおはようロード

でもうれしかったです。今年は企画委員長になりました。これからも元気なあいさつをつなげ、地域にも広めていきたいです。

避難所開設訓練から学んだこと

豊田市立上郷中学校 3年

吉村 悠希

上郷中学校では、2017年度から毎年8月頃に「避難所開設ボランティア」を地域の方と中学生が一体となって行っています。

私は、中学2年生の時にこの訓練に参加し、6つある班「避難所設営班、倉庫内把握班、要支援体験班、仮設トイレ設営班、給水設備設営班、非常食運搬班」のうち、仮設トイレ設営班の担当になりました。



仮設トイレの設営

まず、マンホールがある場所の上に簡易 TENTを立て、マンホールの蓋を外し、トイレ用の蓋と入れ変えます。家のトイレと比較すると、とても使いづらいと思いましたが、災害時ではそんなことを言ってはいただけません。排泄は、生きている人間にとって欠かすことのできない行為のため、仮設トイレを設営することは、非常に重要だと感じました。

訓練が終わったあとは各班で、改善点を意見交換しました。ここで出た意見を受けてまた来年へと生かしていきます。私は、今後災害が起きたときに落ち着いて行動できるように今回学んだ訓練を忘れないようにしていきます。

考える力と思いやり

愛知県立豊田東高等学校 3年

岡野 朱峰



ゲームの説明

豊田東高校JRC部は、近くの小学校の特別支援学級の子どもたちとの交流を行っています。この活動では、ゲームなどを通して交流を深めるのですが、私ははじめ「特別支援」という言葉に緊張しました。そこで特別支援学級について調べてみると、一人一人が個性豊かであると気づきました。そこから、部員みんなと「誰もが楽しめるゲームをするにはどうすればいいか」を考え、自分たちで実践してみました。すると新たな気づきが生まれ、何度も練習を繰り返し返しました。その結果、交流会当日には子どもたちの楽しむ姿を見ることができて、達成感でいっぱいになりました。私たちは自然に、JRCの態度目標である「気づき・考え・実行する」ことができていました。相手を思いやる気持ち溢れるJRC部のみんななどの活動は、私を人として成長させてくれました。

これから先、いろいろな人と出会い、活動することがあると思います。どんな時でも「気づき・考え・実行する」をモットーに、私ができることを考え、積極的に行動に移していきたいです。

心を育てるといふこと

名古屋市長守山小学校

教諭 水野 雅之

「赤十字といえば、献血、募金くらいで、JRCって学校で何をするの？」これは私が10年前、JRCと出会う前に思っていたことです。今では地区トレセンなどで指導者として参加させていただくことが多くなり、私のような全く知らない人でもトレセンに携わること、奉仕の精神を自然に学ぶことができる素晴らしい活動だと思っています。

特に私が大事にしていることが「気づき、考え、実行する」という態度目標です。周りの人が気持ちよく過ごせるように意識することで、すばらしい学級や社会をつくることにつながると思います。

最近では、新型コロナウイルスに対して、感染症としてだけではなく、差別や偏見にまで目を向けた赤十字の指摘のすごさに改めて感心しました。差別の原因となる不安に振り回されないよう、気づく力、聴く力、自分を支える力を高めます。当たり前のことができない緊急事態だからこそ、大人も子どもも一緒に自分を高め直し、できることを考えられるよう、休校明け初日に自分の学級で授業を行いました。「気づき、考え、実行する」ことを通して感染症にも負けない心を育てていきたいと考えています。



負のスパイラルを断ち切るために

わたしとJRC

春日井市立小野小学校

教諭 澤川 尚絵

本校へ赴任し、私は初めてJRCについて知りました。主体性を育むために、一人一人が、身近な問題に「気づき」、自分は何をするべきなのかを「考え」、「実行する」ことは、とても難しいです。小学校の現場で、児童が自分で「気づき・考え・実行する」力を養っていくには、教員自身がJRCの活動理念を常に意識し、手本となるよう行動することが大切だと思います。



ひとかかえ運動

本校では、学期に一度「ひとかかえ運動」を行っています。環境委員が教員とともに、新聞紙や牛乳パック、空き缶などの資源を全校児童から回収し、リサイクルして得たお金を募金する活動です。委員会の児童は朝早くから登校し、資源を持ってきた児童や保護者の対応をします。「重いのにありがとう」と来た人に声をかけたり、忙しそうにしている友達を見かけたりすると、「これを運べばいい？」と自ら何をすればいいのか考え、行動する姿が見られます。委員会活動や行事などの学校での活動を通して、教員と児童が周囲の状況へ目を向け、自ら問題を解決していくこととする精神を養うことで、自らの成長とともに、よりよい学校づくりにつながればと考えています。

学び合う学び

弥富市立弥富北中学校

教諭 山田 悠

弥富北中学校は、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを目指しており、授業の中でグループ学習の時間をできるだけ取り入れるよう工夫しています。総合的な学習の時間において、2年生は、SDGsの学習に取り組んでいます。SDGsとは、2030年までに、世界が抱える様々な課題を解決するための17の目標です。この17の目標について深く学習し、自分たちには何ができるのかを生徒一人一人が考えていきます。

ある日の授業で、「貿易ゲーム」を行いました。この授業のねらいは、自由貿易による世界経済の動きの一部を体験することです。先進国と発展途上国の経済格差の仕組みを知り、お互いが発展し合う方法を考えます。生徒たちは、グループの仲間と協力し、どうすれば自国の経済がよい流れになるかを考えました。

グループ学習を通して、互いに学び合うことで生徒たちの「気づき・考え・実行する」力は入学当初よりも高まっているように感じます。

生徒たちの力がさらに伸びるよう、今後とも「学び合う学び」を継続して取り組んでいきたいと思っています。



貿易ゲーム

加盟校だより

刈谷市立朝日中学校



地区敬老会のボランティア

本校には、JRCの精神、「気づき・考え実行する」を大切にした活動として、地域のボランティア活動があります。毎年、「こみゼロ運動、防災訓練、敬老会、地区や幼稚園、小学校の運動会など、10以上のボランティアの依頼があります。

生徒は、やってみよう、やってみたくて意欲をもつて応募をするため、地域の方との関わりの中で、多くのことを学んでいます。ある生徒は、「お年寄りがスリッパに履き替える時、手を添えたり椅子をすすめたりして自分なりの工夫をしてみたら、多くの人からお礼の言葉が返ってきた。相手のことを考えて、相手のために自分ができることをすると、相手に自分の気持ちが伝わる」と感想に書きました。

今後も、誰かの役に立ちたいという生徒の思いを大切にした活動を支援していきたいと思っています。
(松下 広貴)

豊田市立若園小学校

本校では、赤十字委員会の児童が中心となつて、エコキャップの回収や募金活動を行っています。また、初めに赤十字登録式を通じて、青少年赤十字とは何かなどを説明し、今年度の活動内容を伝え、活動に対しての意欲を高めています。

エコキャップの回収は、手作りのポスターや、回収する前日に各クラスへ呼びかけることで、徐々に回収率も上がってきました。そこで募金活動においても、一人でも多くの児童が協力したいと思えるような工夫を考えました。本校の特色である「折り紙教育」を兼ね、折り紙で募金封筒を二つ二つ丁寧に作成し、集まった募金封筒を廊下に掲示しました。掲示物からは、一人一人の思いやりの心を感じられました。世界の様々な国の困っている人たちのために少しでも役に立ちたいという思いが芽生え、積極的な募金活動への参加につながりました。

今後も、身近な福祉活動も含め、自分たちができることを考えさせ、助け合いの精神を育んでいきたいと思っています。
(野田 留菜)



思いやりの心が詰まった募金封筒

愛知県立岡崎高等学校

本校では、JRC部員が中心となり、主体的に「児童育成センター」「放課後デイサービス」「高齢者施設」「独居老人宅訪問活動」「献血呼びかけ活動」「募金活動(校内・校外)」「地域交流センター」など多岐にわたるボランティア活動に参加しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのボランティア活動が休止を余儀なくされました。そんな中でも部員たちは、JRC部員として何ができるかを考え、新型コロナウイルス感染症により影響を大きく受けている医療関係への募金を実施する計画を立て、6月の学校再開後に全校生徒・教員へ募金を実施しました。飛沫感染予防として、声を出しての呼びかけはせず、一定の間隔を保ちながらパネルを持つて募金を呼びかけました。

また、現場に行つてボランティア活動に参加することは難しい状況ですが、「児童育成センター」で関わつた児童たちが少しでも元気になるように、「楽しい学校生活の様子」の壁画」を作成して児童育成センターへ掲示してもらいました。

今後も新型コロナウイルス感染症が懸念される状況ですが、こんな状況下からこそ、部員一人一人が「気づき・考え・実行する」を実践してボランティア活動に取り組んでいきたいです。
(塚元 雅則)



学校再開後の募金活動の様子

名古屋市中楠中学校

本校ではJRCの態度目標である「気づき・考え・実行する」ことを大切にし、日本赤十字社から提供されている教材を活用した授業を行っています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の理解を深めるため、日本赤十字社のトピックス「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」の負のスパイラルを断ち切るために「を」とにした、学年二斉道徳を行いました。「病氣」の予防だけでなく、「不安」によつて感染症に振り回されない心の強さや、「差別」をなくすための正しい理解、また、差別と感ぜられるような事例について考える内容にしました。

また本年度は3密を防ぐため、移動を伴った避難訓練を中止にし、青少年赤十字防災プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の動画を学級で視聴し、実際の災害の怖さやボランティアの重要性を学習しました。

今後も、日本赤十字社の教材を活用し、「気づき・考え・実行する」生徒の育成に励んでいきたいです。
(秋山 哲人)



「まもるいのち ひろめるぼうさい」の活用

豊明市立館小学校

本校では、ペア活動（ハッピー活動）を中心に異学年交流を盛んに行っています。その中でも特に力を入れているのが「ハッピーチャレンジまつり」です。

ハッピーチャレンジまつりでは、下学年のために上学年がミニゲームなどのコーナーを企画・運営します。一か月以上の準備期間の中で、「ゲームを運営するためには、どんなものが必要かな」「どうしたら時間内にできるかな」など、話し合ったり工夫したりしながら、試行錯誤を重ねてコーナーを作り上げていきます。仲間と協力し、一生懸命に取り組む子どもたちの姿を見ると「気持ち・考え・実行する」力が育ついると感じます。まつりを終えて疲れているはずの子どもたちですが、その表情は笑顔で満ちあふれていました。

今後もこの活動や様々な行事を通して、自分に

できることを考え、仲間と力を

合わせて実行する

児童の育成を目標

として取り組んでい

きたいと考えています。

（杉山 薫）



ハッピーチャレンジまつり

東浦町立片葩小学校

本校では例年夏休みに、校区にある老人ホーム「東和荘」で、福祉委員会の児童を中心に盆踊りの手伝いを行います。

一生懸命練習したりリコーダーを演奏した際に、「上手だったね」「来年もよろしくね」という言葉を頂き、ボランティアのやりがいを感じることができました。地域の方や入居者に喜んでもらえることは、児童の心に刻まれています。また、一緒に盆踊りを楽しむことも大切な役割の一つです。地域の方々との触れ合いを大切に、日頃の感謝の気持ちを表すことができる貴重な場です。児童の笑顔を見ると教師たちも「これからも頑張ろう」という思いにさせてもらえます。

今後も、日頃お世話になっている地域の方々への恩返しとして、盆踊りを盛り上げるための協力をしていきたいと思

（榎原 拓久）



「東和荘」での盆踊り

豊橋市立高師台中学校

本校では、毎年校区自治会の皆さんをお招きし、地域交流会を開催しています。生徒が地域のことを考え、地域の人たちにアドバイスをもらい、地域に貢献できる活動を実施しています。



地域交流会

地域交流会では生徒が「私たちが地域に貢献できること」を提案し、自治会の方からは、「もつと地域の行事に参加してほしい」「交通ルールを守ろう」「元気なあいさつができていてよい」など、たくさんの意見が出ました。それをもとに、地域の方と協力して挨拶活動や校区の危険箇所調べなどを行いました。

また、自主的に校区の防災活動などの行事に参加する生徒が増えてきました。学校と地域とのつながりをそれぞれが確認することができ、生徒たちが「気持ち・考え・実行する」の思いを育てていくことができました。今後もこのようなJRC活動に取り組んでいきます。

（横田 哲也）

岡崎市立本宿小学校

本校では、学区にある特別支援学校との交流活動を長年にわたり行っています。この交流活動では、体の不自由な児童とのふれあいや健常者としてできることを考え学ぶこと、人を思いやる心を育てることを大切にしながら進めています。

主な内容として学年交流と作品交流があります。学年交流は年に一回行っています。両校の学年担当教師が打ち合わせを行い、どんな交流ができそうか確認します。本校児童が中心となつて活動計画を立て、会の司会・運営や挨拶など、支援学校児童も活躍できる場面を相談しながら決めます。

自己紹介カードを交換した後、児童は交流内容を真剣に考えます。運動会で演じた踊りを全員で披露したり、グループごとに遊び体験コーナーを開いたりするなど、学年に応じた活動を準備します。高学年になると、去年行ったことと違う内容を発案し準備できるので、継続した交流活動の意義を感じます。

今年度はコロナ感染症拡大防止のため中止になりましたが、作品交流で両校の児童のつながりを継続していきたいと考えています。

（西田 貴子）



交流活動



体育大会 カラーTシャツの導入



SakaTube(テレビ放送)での呼びかけ

豊川市立小坂井中学校



生徒議会での話し合い



落ち葉拾いボランティア

平成30年度・令和元年度 研究委嘱校 豊川市立小坂井中学校

“自主の姿”の実現

～8つの姿を大切にした授業 手立て3「特別活動」～

支部通信

学校教育に赤十字の理念を

社会は、様々な価値観・立場や背景をもった人で構成されています。その違いを受け入れることは、まさしく赤十字が活動を行っていく上での基盤にしている人道であり、それは、誰の心の中にもある「おもいやり」「やさしさ」の気持ちを引き出すことにあります。しかし、私たちは、「困っている人を助けたい」という思いを妨げることも同時に持ち合わせています。それを「人道の4つの敵」と改めて唱えたのがジャン・ピクテ（元赤十字国際委員会副総裁）です。これらは、私達が克服すべき人間の弱点といつてもいいでしょう。

- ① 利己心・自分以外は見え、心の視野が狭いこと
- ② 無関心・自分以外に関心がなく、周囲の変化にも気づかないこと
- ③ 想像力の欠如・他人の苦しみをその人の身になって考えられないこと
- ④ 認識不足・うわべだけで判断し、それが噂が事実か疑問をもたないこと

「助けたい」という優しい心で見ると、身の回りにはたくさんの「気づき」があります。自分で「気づき」自分で「考え」今できる最善のことを「実行する」。このように、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」をキーワードにすることで、自主的な自律した子どもを育て、助け合い支え合う活動が期待できます。

また、本号には、平成30年・令和元年度の研究推進校である長久手市立東小学校、豊川市立小坂井中学校の研究の一端を掲載しています。すでに加盟校には、研究紀要を送付させていただきました。両校の研究が各学校の教育活動の助になることを願っています。

令和2年度事業計画

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い各事業を中止せざるを得ない状況でした。想定外のことに対して、改めて判断、対応の難しさを感じた年度当初でした。

※ 赤字は中止した事業

* 総会・実践発表会
4月21日 (会場 ウィルあいち)

* 指導者のための国際人道法研修会
5月15日 (会場 愛知県支部)

* 支部主催トレセン
・高校トレセン 8月2～4日
・小中トレセン 8月20～22日

* 指導者講習会
(会場 愛知県青年の家)
8月23～25日

* 救急法講習会
(会場 愛知県青年の家)
8月23～25日

* トレセン・指導者講習会検討会
8月17～19日 (会場 愛知県支部)

* 高校指導者研究会・メンバー連絡会
11月7日 (会場 愛知県支部)

* 加盟校校長・指導者研究会
1月15日 (会場 ウィルあいち)

* 指導者講習会参加者研修会
1月23日 (会場 愛知県支部)

* 高校活動発表会
2月6日 (会場 愛知県支部)

* 研究推進委嘱校
・名古屋市立西城小学校
・「なかまの対話を大切にし、自ら「気づき、考え、実行する」子どもの育成」
・蟹江町立須西小学校
「人としての礎を築く」
・体も心も健やかで、地域から愛される須西の子の育成をめざして」

加盟状況 (令和2年4月1日現在)

○幼稚園・保育園 五六園

○小学校 六三五校

○中学校 二七〇校

○高等学校(含特別支援学校) 一二七校

(加盟校合計) 一〇八八校・園

(メンバー総数) 四三六、九五二名

発行 令和2年8月1日

発行者 愛知県青少年赤十字指導者協議会

事務局 日本赤十字社愛知県支部

〒四六一一八五六
名古屋市中区白壁一五〇
TEL〇五二一九七一―一五九九
FAX〇五二一九七一―一五九〇